

『認知症と糖尿病』



認知症について耳にしたことがあると思いますが、糖尿病であると認知症になりやすいことはご存じでしょうか。ある調査では、「糖尿病があると、認知症になる危険度は 1.6 倍である。」という結果が出ています。認知症の原因として多いのはアルツハイマー型認知症であり、次は血管性認知症です。そして、この両方を原因とする認知症も中にはあり、糖尿病では、その割合が多くなります。理由は、糖尿病では小さな脳梗塞を合併することが多いためです。そして、この二つの原因が認知症を発症しやすくさせると考えられています。また、糖尿病は治療状況により、低血糖症状（血糖値が低くなり、体が燃料不足になって起こる症状）を引き起こすことがあります。低血糖の中でも、重症の場合には、これも認知症の発症危険度が（そうでない場合に比べて）2倍になります。逆に認知症があると重症低血糖になる危険性も高まるので、問題です。一方、高血糖も認知症とのかかわりが大きく、HbA1c 値（過去 1～2 か月の血糖値推移の指標となる検査値。正常は 6%前後）が 1%増加するごとに、認知症になる危険度が 1.5 倍に高まると言われます。このため、糖尿病の治療は単に血糖値をよくする治療ではなく、認知症を意識した治療である必要があります。重症の低血糖を起こさず、高血糖が続かないようにすることです。それは簡単なことではないかもしれませんが、しかし、最近の糖尿病治療の進歩は目覚ましいものです。注射による治療は、以前よりも針の痛みがかなり減っており、注射の回数も状況によっては、1週に1回ですむものもあります。また、飲み薬も多様化しているので、それらを上手に組み合わせることで、かなりの効果が上げられるようになってきています。悪い情報だけにとらわれず、健診を利用するなどして身体を知り、心配な点をかかりつけ医に相談することをお勧めします。

DITN 第 444 号 2015 年 3 月 5 日発行認知症の抑制を目指した糖尿病治療



多摩東部地域産業保健センター 〒181-0013 東京都三鷹市下連雀 3-38-4 三鷹産業プラザ 404
TEL 0422-24-6906 FAX 0422-24-6908
メールアドレス sanpo@kind.ocn.ne.jp HP <http://www.sanpo-tama.jp/>